

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名	住吉区
学校名	依羅小学校
学校長名	出石 創二

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただきため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・依羅小学校では、第6学年 84名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語科の平均正答率は66%で、全国平均より0.8ポイント下回ったが、大阪市平均より1.0ポイント上回った。算数科の平均正答率は57%で、全国平均、大阪市平均ともに1.0ポイント下回った。全国と比べて下回っているものの、ほぼ同程度に迫っている。一方、理科の平均正答率は51%で、全国平均より6.1ポイント、大阪市平均より4ポイント下回った。

無回答率については、国語科が1.4%、算数科が3.3%とともに全国また大阪市の無回答率より同率または下回っている。理科においては、3.6%と他の2教科より高く、全国、大阪市の無回答率を上回った。

児童質問紙調査では、各教科に関する項目で全国と比べて上回っている。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

[国語]

平均正答率の全国との差が、昨年度と比べると2.9ポイント縮まった。「(1)言葉の特徴や使い方に関する事項」の正答率が高く、漢字能力検定への受検に取り組んだことが漢字の習得につながったと考えられる。質問紙の「解答時間は十分でしたか」の項目で93.6%の児童が肯定的な回答をしている。しかし、選択肢の微妙な違いを読み取ることができていない傾向があるため、丁寧に読み取る習慣づけが必要である。

[算数]

平均正答率の全国との差が、昨年度と比べると3.4ポイント縮まった。しかし、区分IVの児童の割合は、昨年度と比べて4.0ポイント増加している。基礎的な学習の積み重ねが必要である。また、何が問われているのか正確に読み取ることができるよう回答経験をもたせるとともに、日々の学習においても数や言葉を用いて自分の考えを伝える話し合い活動を充実させていく。

[理科]

平均正答率は51%と全国平均より6.1ポイント下回った。問題形式において、短答式の項目で全国との正答率の差が大きく見られた。基本的な理科の用語や知識の習得が必要である。また、日々の学習において、問題やめあてを考えたり、結果の数値を用いて考察を書いたりする力を育んでいく。

質問調査より

「自分にはよいところがあると思いますか」や「将来の夢や目標を持っていますか」の質問に対して肯定的な回答をしている児童が多い。また、各教科に関する質問においても「好きですか」「授業の内容はよく分かりますか」の質問で肯定的に回答している児童の割合が全国よりも高くなっている。このことから、自分の得意なことや日々の学習において前向きに取り組んでいることがわかる。

ICT機器に関する質問では、文章を作成したり情報を整理したりすることはできるが、それを活用して友だちと考えを共有したり比べたりするために活用している児童は、やや少ない。グループで資料を作成したり、友だちと見比べてさらにより良いものに作り上げたりする機会を多く取り入れていく必要がある。

今後の取組(アクションプラン)

国語科、算数科においては、全国及び大阪市との差は縮まってきており、これまでの取組から一定の成果が出たものと考えられる。しかし、算数科では区分IVの児童の割合が増えているという課題も見られる。

今年度は、昨年度に引き続き学びコラボレーターも連携し、放課後補充学習のさらなる充実を図っていく。一人一人のつまずきを把握し、個に応じた課題を設定し取組を進めていきたい。今後も学びコラボレーターやスクールアドバイザーとも連携し、校内研究や研修を通して教員の指導力向上に努め、より良い授業づくりの研鑽に励む。

【 全体の概要 】

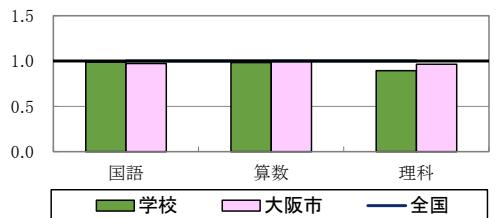
平均正答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	66	57	51
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1

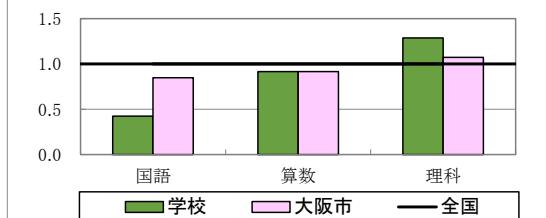
平均無解答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	1.4	3.3	3.6
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8

平均正答率(対全国比)



平均無解答率(対全国比)



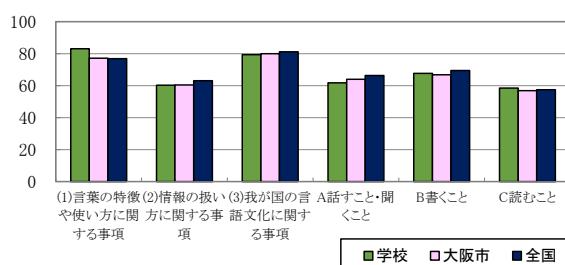
【 国語 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方にに関する事項	2	83.1	77.1	76.9
(2)情報の扱い方にに関する事項	1	60.3	60.4	63.1
(3)我が国の言語文化に関する事項	1	79.4	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	61.8	64.0	66.3
B 書くこと	3	67.6	66.7	69.5
C 読むこと	4	58.5	56.9	57.5

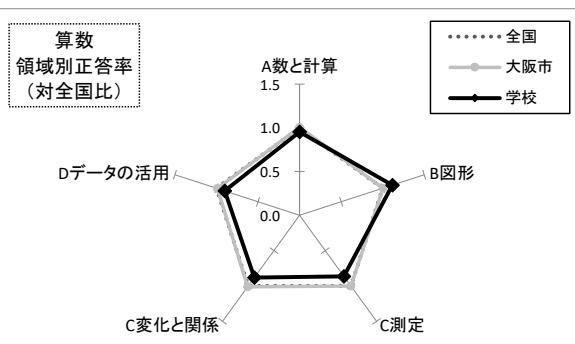
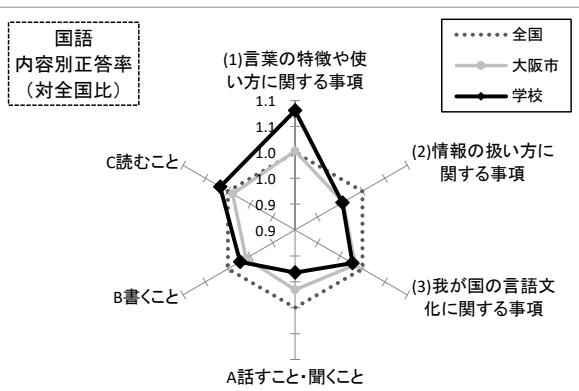
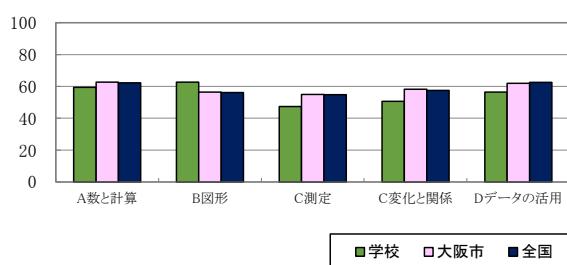
【 算数 】

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	59.4	62.7	62.3
B 図形	4	62.7	56.4	56.2
C 測定	2	47.3	54.9	54.8
C 変化と関係	3	50.7	58.2	57.5
D データの活用	5	56.4	61.9	62.6

国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)

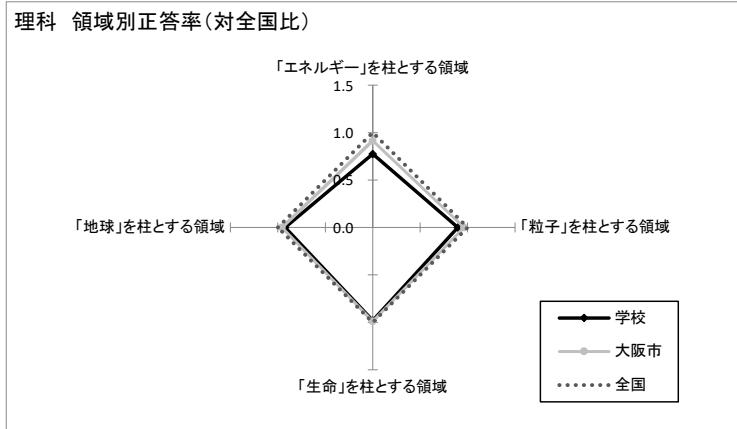
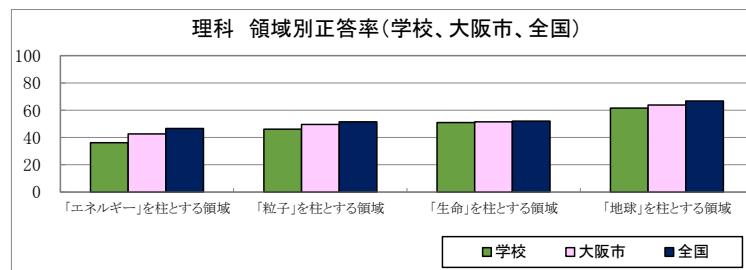


算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 区分	「エネルギー」を 柱とする領域	4	36.2	42.7
	「粒子」を 柱とする領域	6	46.1	49.5
B 区分	「生命」を 柱とする領域	4	51.0	51.4
	「地球」を 柱とする領域	6	61.6	63.8



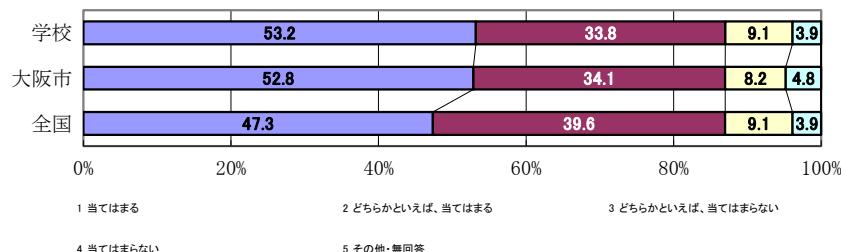
児童質問より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

質問番号
質問事項

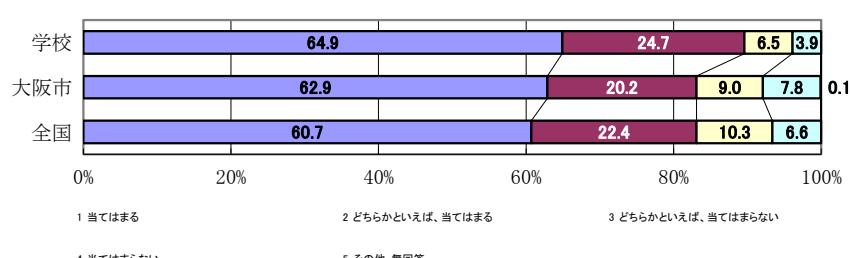
5

自分には、よいところがあると思いますか



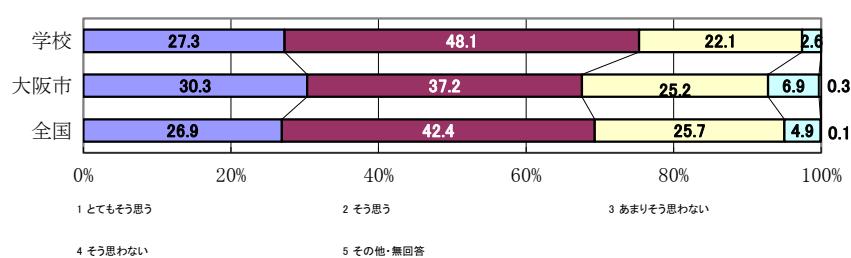
7

将来の夢や目標を持っていますか



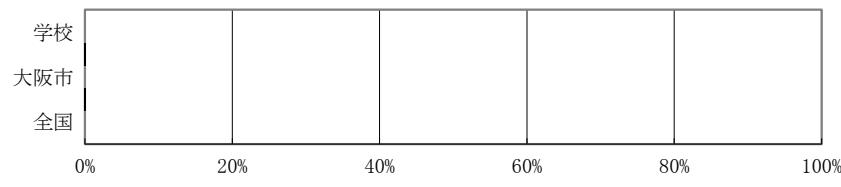
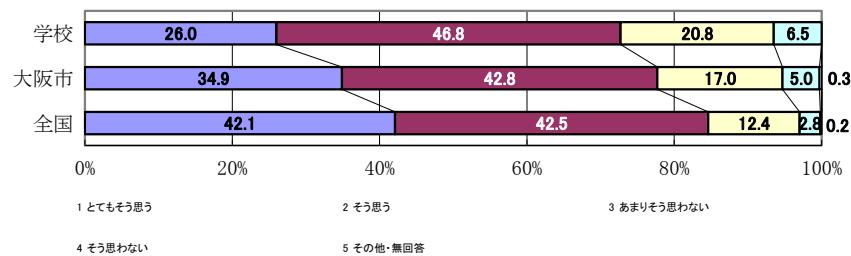
74

あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する(図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる)ことができると思いますか



81

5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。(6)友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる



学校質問より

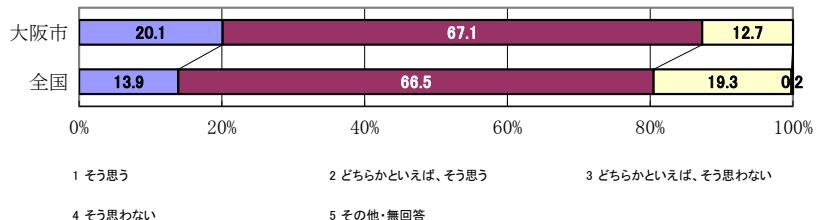
■1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10

質問番号
質問事項

26

調査対象学年の児童は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか

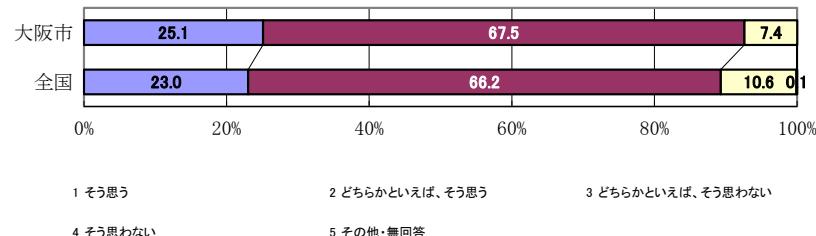
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



27

調査対象学年の児童は、学級やグループでの話合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか

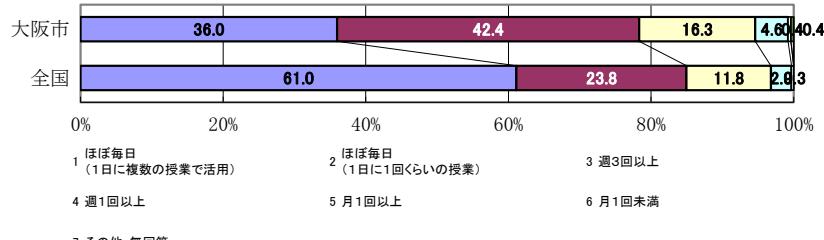
学校 「そう思う」を選択



58

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業での程度活用しましたか

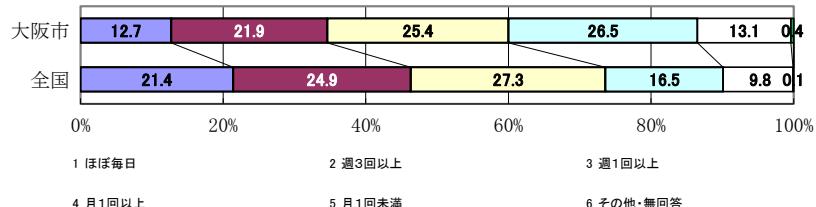
学校 「ほぼ毎日(1日に複数の授業で活用)」を選択



62

調査対象学年の児童同士がやりとりする場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか

学校 「週3回以上」を選択



76

地域学校協働活動の仕組みを生かして、保護者や地域住民との協働による活動を行いましたか

学校 「よく行った」を選択

